

気温は高い予報！

浸種水温は15℃を超えないように管理！

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部

◎今後の気象

気象庁の2週間予報によると、東北地方では4月5日頃から、かなりの高温が予想されています。浸種する水温が15℃を超えると、浸種中にばか苗病菌が増えやすくなります。水温を適正に保ちましょう。

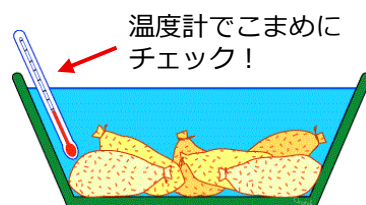


気象庁HPから引用

◎管理のポイント

(1) 浸種の水温が15℃を超えないように、こまめに確認！

浸種中の水槽に直射日光が当たると水温が上昇するとともに、水槽内で温度ムラが生じやすくなります。水槽は日陰や屋内に置き、水温が15℃を超えないように管理しましょう。また、種子袋の位置の入れ替えを行うなど、温度ムラが出ないようにしましょう。



(2) 催芽は芽切れをしっかりと確認！

催芽は、種籾の最適発芽温度（32℃）で行います。令和7年産種子も、登熟期の高温の影響で休眠がやや深くなっていると見られます。例年よりも催芽に時間がかかる場合がありますので、種籾の9割がハト胸状態になったら播種作業に入ります。



(3) 適切な播種量・育苗日数で健苗育成！

向こう1か月の気温も高く推移する見込みです。2週間気温予報などを参考に、播種や育苗の計画を再確認し、健苗を適期に田植えできるように管理しましょう。

育苗日数の目安：高密度播種苗15日、稚苗20日、中苗30日程度

STOP! 農作業事故・農業機械はエコ運転で
農作業事故防止運動春季強化期間(4/1～6/10)

